

H23. 6. 4

気仙沼・大島での在宅医療



長尾和宏 (ながお・かずひろ)
 東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。平成7年、尼崎市で「長尾クリニック」を開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る、総合診療を目指す。医学博士。労働衛生コンサルタント。52歳。ブログ (<http://www.nagaoclinic.or.jp/doctorblog/nagao/>) が好評。

東京や神奈川、東北の大学から派遣された医師、看護師、薬剤師、理学療法士らがチー

孤軍奮闘の訪問看護師さん

宮城県の気仙沼湾にボッカリ浮かぶ「大島」という島があります。なんと津波が島の中央部を超えてしまったそうです。4月30日、広島から寄贈され、再開したばかりというフェリーに乗り込み、医療チームに混じって大島に渡りました。

チームリーダーが診察を代わりました。その後、数日間診療所に泊まり込んで島の医療を守り、大病院から来た医師は「島唯一の開業医」の強い信頼を得て、彼の手足となって働いていました。

一方、島の中心地、大島小学校の保健室は救護室になりました。同僚らが診療していましたが、風邪やけがの患者さんになり、普段より血圧が上昇した患者さんが多いのが印象的でした。

午後、島にたった1人し「地域や住居あってこそ医療せん。東北の高齢化率は、阪神間の約2倍だそうです。被災地の医療・介護は超高齢化社会・日本の近未来を象徴している。

訪問看護師さんと同じかない訪問看護師さんに行。あちこちの在宅患者を訪問診療しました。認知症や脳梗塞後遺症の在宅療養風景は、尼崎で見ると全く一緒でした。

介護ベッドも介護者の疲れ具合も自分の日常とそっくり。当たり前ですが、薬もすべて普段と全く同じ。日本の医療システムはすごい！訪問看護師さんの悩みは島に1人しかないの、島を離れ

今後、放射能で大変な福島県の医療が心配です。避難を拒否して町に残る住民や在宅患者さんはどうなるのでしょうか。この国にいる限り必要な医療が受けられる態勢であってほしい。



東日本大震災特集⑥

気仙沼市大島 気仙沼湾入り口に位置し、「気仙沼の防波堤」とも呼ばれる東北地方最大の有人島。津波で孤立したため、アメリカ海軍航空隊と海兵隊による支援活動が行われた。

巡回診療車による診療、訪問看護師やヘルパーによる在宅ケアの充実が望まれます。被災地はもともと医療機関が少ない地域。震災後、医療過疎に拍車がかかっています。北海道の診療所のように関東や関西から飛行機で「通勤」する医師が増えるかもしれません。

ひょうご

今回の被災地での活動が記録映画になり、公開されます。「無常素描」(大宮浩一監督、東風配給)。東京は今月17日、大阪は7月2日からです。大島の様子も出ると思います。